

どんびま

2010年7月13日発行
発行者 椀の湖農業小学校

ホタル

先週、仲間のフォークバンド
土着民のライブハウス鼓土里座
でホタルコンサートが催された。

今年のゲスト青木まり子さん
の都合で一週遅らせていたので、
ホタルの時期が終わってしまうの
ではという懸念があった。同じ
思いの主催者の一人が、たまた
ま前夜家の中に入って来たとい
うホタルを一匹持参していた。

開演して暗くなったら、虫籠
の中で光りだした。まり子さん
が「帰ってきてくれたんだ。」と

先年亡くなった仲間の名を呼んだ。幸い、その夜は傍を流れる小川の岸で五匹ほどのホタルが飛んで、それぞれの想いで眺めた。

今日はもう盆、ゲンジボタルが消えると、コメボタルの季節に代わる。 (草)



7月授業日のご案内

●日程 7月25日(日)

受付 9:00~ 9:30

始めの会 9:30~ 9:40

授業 (畑仕事) 9:40~11:30

昼食 カレーライス、サラダなど 11:30~

昼休み カブトムシの運動会

キャンプの相談 13:00~

かかし作り

終わりの会 15:00~15:15

●服装 作業のできる服装

●持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具

買い物袋、箸、食器、スプーン

かかしの材料

カブトムシ

●締め切り **7月21日(厳守)**

☆カブトムシは育てていますか。成虫になっていたら、持ってきて下さい。

☆かかし作りは家族で1体作ります。7月・8月に完成させて、8月に皆で投票する「かかしコンクール」をした後、田んぼの側に並べて立てます。

骨組み(3cm角材の十字架型と胴体にするワラ)はこちらで準備しますので、頭部、帽子、着物などは各自で準備、工夫して下さい。

☆キャンプの相談では 食事・もの作り・遊びの三つの係に分かれて相談します。

(その間に)生徒さんはキャンプファイヤーでのグループの出し物を相談してもらいます。それぞれ、楽しい案を考えて来てください。

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)

～6月の農小レポート～

「ダイコンの花が咲いた」

朝起きた時には降っていなかった雨が、出掛ける頃には降りだしてしまって、今年も雨の中で台所前の屋根を張ることから始まった。先生方とスタッフの朝の打ち合わせで、畑の土の様子から授業の内容を変更して進めることを決めた。

畑ではダイコンにとうがたって白い花の花盛りとなっていた。

《午前の授業》 お茶摘み、お茶揉み、

雨の中だったが、各グループ毎に場所を決めて茶葉を摘んだ。農小の中の茶の木の様子では摘めそうな芽は少なかったため、先生方が他所から茶の木を切って来てそれからも一芯三葉を摘み取った。摘んだ葉は全部寄せて、五つに分けてセイロで蒸してから筵の上で揉みあげた。炭火を熾してその上で手でまぜながら乾燥させた。

《郷土料理体験》 朴葉(ほおば)寿司づくり

この時期の料理といえばこれ。まず、まだ酢飯が温かいうちにを朴の葉に盛り、はさむようにして重ねておく。朴葉の香りがうつったら、広げて並べた上に手分けしてこ(具材)を盛りつけて、再びはさんで重ねる。(いわゆる寿司を漬ける。)

朴葉の使い方は地域によって包み方に違いがあり、家庭ごとにその家の味がある。

朴葉は香りがよいだけでなく抗菌作用もある。

《昼食》 ほおば寿司、野菜サラダ、かき玉汁、キャベツとベーコンの煮物、漬物

おやつに朴葉もち、ひねりもち

《畑の授業》 収穫・種蒔き

◎畑の土の様子から大勢で畑に入ることは為に悪いということで、不本意ながら生徒さんには取ってもらえず、先生方に収穫をお願いした。ジャガイモは持ち帰る分だけ、ニンジンは大きなものから採って、来月に残した。ハクサイは大きくなったが数は少ない、大きさによって切り分けることにした。キャベツ、サニーレタスは全部採る。

◎種蒔きは畑に入れないので、ダイズは稲の苗箱に1粒ずつ筋に、トウモロコシはポットに2粒ずつを蒔く。

◎持ち帰りは収穫した野菜と、あぼ兄のダイコン、キャベツも分けて配った。

《バケツ稲の説明》 管理

梅雨のうち、梅雨明けの暑さ対策と7月までの水管理のコツを説明。

本来なら今月植える予定だったトマト、ナスなどは先生方の作業日に植えてもらった。サツマイモは農場長が、種を蒔いたダイズとトウモロコシはあぼ兄がそれぞれ植えた。今年田のヒエが多く生えていたので、作業日に取った。

～今月のちょっと一言～

今年はダイコンが早々ととうがたって花を咲かせてしまい、収穫することができなかった。先生方との評議では生育の途中で寒さにあったせいではないかと云うことになった。野菜は気候の変動にあうと、早く子孫を残せるように生理をシフトさせるのだ。

花が咲き、実がなって、種を熟成させ子孫を残す。これが野菜の一生なのだ。

野菜を育てるとは言いながら、人は野菜の生命を途中で奪って自分の生命をつないでいるのだ。野菜だけでなく家畜や魚の生命を頂いて私たちは生きているのだという意識を心の底にとめてほしい。農小へ通ってくれた子は生命を大事にする子になってほしい。

～あぼ兄の百姓ばなし～

「ペットボトルとお茶」

6月の授業は雨の中での茶摘みだった。5月の一番茶と7月の二番茶の間で6月は良い茶葉はとれない時期だ。特に農小の周りの茶は生育が悪いので、先生方が別の場所から茶の木そのものを持ち込み、その芽を摘んで何とか量を確保した。

小さなかわいい手で茶もみもして、お茶の出来るまでの体験ができたかと思う。

あぼ兄もこどもの頃、夜なべに茶もみの手伝いをしたことがあった。一昔前までこの地方の農家は各家庭で飲むお茶は自給していた。専用の茶畑はないが、家の近くの空き地や田畑の畔の斜面などにはお茶の木があったものだ。今は、そんなお茶の木はだんだん無くなり、農家でも加工した茶葉を買うようになった。

最近ではペットボトルのお茶飲料が増えている。新聞などによると、1年間に飲まれるお茶飲料は500mlのペットボトル換算で国民1人当たり37本になるという。原料は国産だが、価格の低迷などで生産農家を追い詰めているという。日本一の茶産地の静岡県でさえ、茶栽培だけでは経営が成り立たなくなったり、特に高級な茶ができる山間地で茶栽培をやめる農家が増えているという。

一昔前から小学生も「急須」を知らない状態になっているという。若いお母さん方が小さな子どもにペットボトルのお茶飲料を家庭でも与えている。これではその子が本当のお茶の味を知らないまま成人になってしまうのではないかと心配になる。茶道は一般に抹茶を指すが、急須を使って煎茶や玉露などの茶葉にお湯を注いで飲む煎茶道がある。格式張らずに、急須や茶碗にこだわりながら茶の風味を楽しむ日本の文化である。

一時、自販機の中はコーラなどの炭酸飲料や糖分の高いジュースが主流だった。それがお茶飲料に代わったのは良い事だと思っていたが、それがかえってお茶離れになり、茶道など日本の文化が消えていくかと思うとさびしい。

今、エコの観点から「水道水を飲もう」の運動が広まっている。

国際環境NGO「フレンズ・オブ・シ・アース」は今月から、使い捨て容器に入った飲料に頼らない生活を提案している。

海外ではペットボトル飲料水の使用を制限する動きが広がっている。米国の60以上の自治体や、英国の省庁は、ペットボトル飲料水を買わないようにしている。オーストラリアのシドニー近郊の町では昨年条例でペットボトルの販売を禁止したという。

一方日本では、名古屋市で08年度から庁舎内の会議ではガラス製の水差しに水道水を入れて出している。お隣の飯田市でも庁舎内の会議では専用ボトルに水道水を入れている。環境庁は6月から使い捨て飲料容器をなるべく使わないように、「マイボトル・マイカップキャンペーン」をと呼びかけている。

家計面で考えると、お茶飲料は500mlが2本で300円する。ガソリンは同じ1ℓが150円だ。あぼ兄のランクル(昭和56年製)は1ℓ当たり8.9kmが精一杯だが、友人のハイブリッドの新車ならお茶飲料1本の値段で35kmも走れることになる。

家庭で朝の食事の後お茶を飲む。その茶葉をポイと捨てないで、もう一度お湯を差してポットに入れれば、経済的には問題にならない程安くて済むという記事もあった。

梅雨が明ければ暑い夏、今年は自販機の冷たい誘惑にちょっと待ったをかけよう。できるだけ、マイボトルを持って出掛けよう。

0157などで見直されたお茶の薬用効果は、健康面での効能だけでなく、癒しの効果もある。(どんびき121号参照)各家庭では、もう一度お茶を見直してほしい。

椀の湖農業小学校の茶作りを思い出してほしい。

～かなちゃんの虫日記～

大きな虫もカッコいいけど、まわりを見わたせば「小さなおもしろい虫もたくさんいるよ。よく見て、ぜひであってみたい。」

トビムシ

1mmくらい

女のほかに
長丸形のオス。



はっばはなしけど
おなかにつける
道具でよく
とびはねる
ことができる。

フボシマルトビムシ

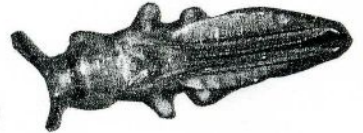
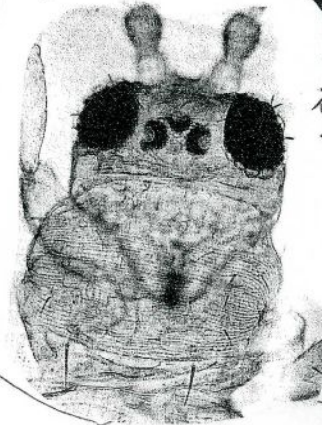
水田、たんぼ、道、
池のまわり、にわ、土の中
いるんだってしんがのこら。



アザミウマ

1mmくらい、黒、茶色、まいるなど

チノキロアザミウマ



花をにぎったりはなしたり
くり返すと中からトコトコ
でてきます。そんな
アザミウマはかぶりを
たべている。

かくたいすると
こんなかお！
目から毛がはえています。

カタビロアメンボ

1.5mmくらい

黒いアメンボみたいな
よく、メスがオスをおんぶして
水面をおるいている。



田んぼのすみっこや
山の中の小さな川、
町の中の大きな川の

はっばのなかのおそいでいる。
みずうみ や たぬき。いろいろな水辺に
いるいろいろなカタビロアメンボが

ヨコバイ

3~5mm

きいろくさ
シロスジヨコバイ
イナコにいる



しんかんせんのようなかおをしている。
はっばやくきのしるをする。「あひない」とかんじると
よこにはってあるいたり、とんでにげたりする。

モウイの木がすきなヨコバイはセンクと白でホニヨミたい！
お茶の木がすきなヨコバイは全身きみとツツ！かお、体、
あし、いろいろなきみとツツ色をしている。
いろいろなカラフルなヨコバイがあちこちにいる。

アブラムシ

しゅるいによって

1~5mm

あや↓

ことき

はっばの上でじっとして
はっばのしるをする。



シロガハ
セキガアブラムシ

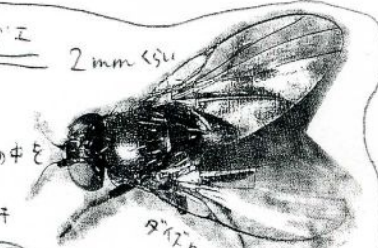
しゅるいによって、
きせつによって
たまごをうんだり
アブラムシの赤い卵を
うんだりする。

クワのアブラムシは大きくて
すばやくうごく。

ハモグリバエ

2mmくらい

はっばの中に
たまごをうむ。
ようちゅうがはっばの中を
たべますんで、
はっばにはラクが
します。



タヌキのハモグリバエ

トマト、インゲンマ、
きゅうり、かぼちゃ、メロン...
虫のしゅるいによってたべまのちがう。